

福岡県における取り組み

福岡県教育庁総務部文化財保護課 吉田東明

装飾古墳の指定

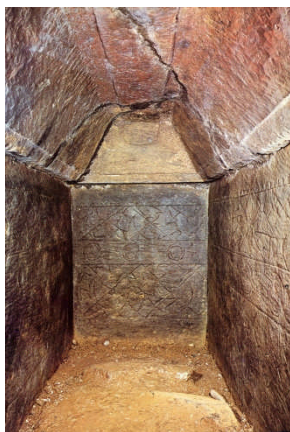
- 国特別史跡:1件
- 国指定史跡:16件(26基)
- 県指定史跡:8件(9基)
- 市町村指定史跡:9件(10基)
- 未指定:12件(13基)

計 46件(59基)

装飾古墳の種類

- 石棺系:2基 彩色／線刻・彫刻・敲打
- 石障系:1基 • 彩色:36基
- 壁画系:43基 • 線刻・彫刻・敲打:26基
- 横穴系:13基

国指定の装飾古墳



浦山古墳



石人山古墳

石棺系:2基

- 石人山古墳【八女古墳群】(筑後市・広川町)
- 浦山古墳(久留米市)

国指定の装飾古墳



日輪寺古墳

石障系:1基

・日輪寺古墳(久留米市)

国指定の装飾古墳



王塚古墳



日岡古墳

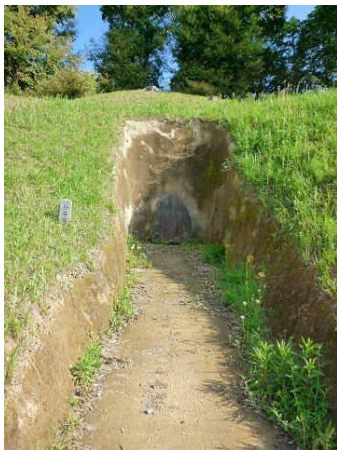


竹原古墳

壁画系:20基

・王塚古墳(桂川町)
・日岡古墳(うきは市)
・竹原古墳(宮若市) 他

国指定の装飾古墳



横穴系:3基

・古月横穴(2・6・9号墓)(鞍手町)

国指定の装飾古墳



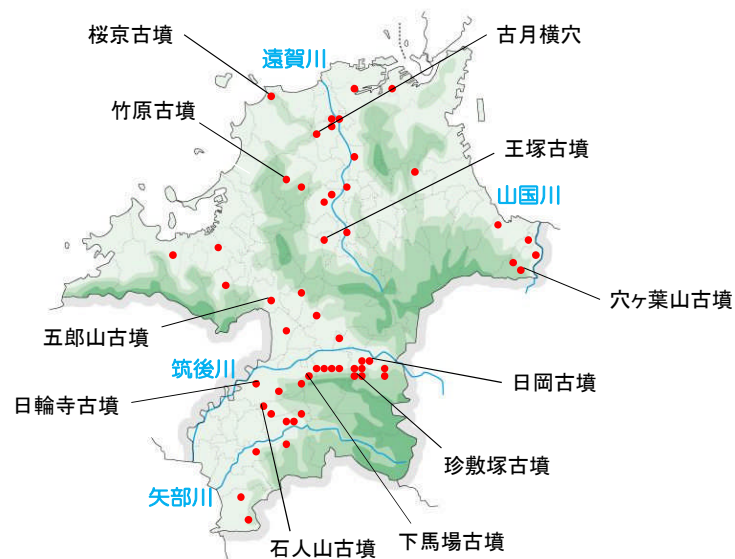
穴ヶ葉山古墳



桜京古墳

- ・線刻:穴ヶ葉山古墳(上毛町)
- ・線刻+彩色:桜京古墳(宗像市)

装飾古墳の分布



装飾古墳の遺存状況

墳丘削平・石室損壊

- ・珍敷塚古墳、鳥船塚古墳【屋形古墳群】 うきは市
- ・仙道古墳 筑前町

石室損壊

- ・日岡古墳 うきは市
- ・原古墳【屋形古墳群】 うきは市

墳丘削平

- ・王塚古墳 桂川町
- ・竹原古墳 宮若市
- ・石人山古墳【八女古墳群】 筑後市・広川町

装飾古墳の保存施設

密閉扉・覆屋設置:9基

・王塚古墳・竹原古墳・五郎山古墳

覆屋を設置:7基

・日岡古墳・下馬場古墳・石人山古墳

入口を閉塞:8基

・古畑古墳・寺徳古墳・穴ヶ葉山古墳

入口を密閉して埋め戻し:2基

・西館古墳【田主丸古墳群】・丸山塚古墳【八女古墳群】

保存整備の時期（最終時期）

・昭和40年代以前:7基

・昭和50年代:7基

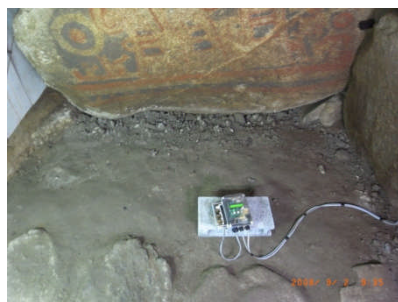
・昭和60年代～平成:7基

・保存整備なし:4基

装飾古墳の劣化

- ・カビ、コケ、キノコ等が発生
- ・土砂や雨水の流入
- ・小動物や虫が侵入
- ・結露が発生
- ・塩類が発生
- ・横穴墓の壁面が剥離
- ・樹木や竹の根が発生

珍敷塚古墳のカビ発生と修理



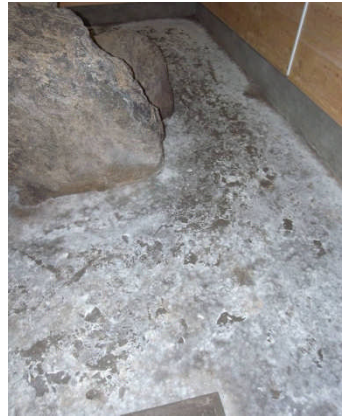
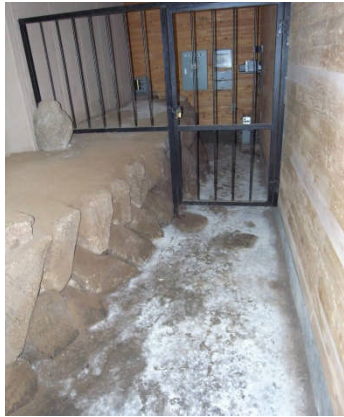
平成20年9月2日



平成20年9月12日

- ・平成20年9月12日、珍敷塚古墳保存庫内で白色のカビを確認

珍敷塚古墳のカビ発生と修理



平成20年9月25日

- ・ホルマリンとエタノールの噴霧による消毒を試みたが、一向に衰える気配はなかった。

珍敷塚古墳のカビ発生と修理



床面の被覆と除湿



ホルマリンによる湿布

- ・その後、文化庁や東京文化財研究所の協力を得て、種々の対策を行った。

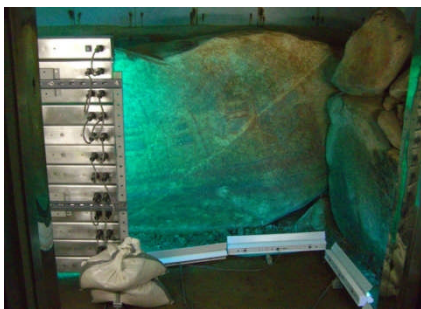
珍敷塚古墳のカビ発生と修理



奥壁に付着するカビ

- ・12月には鎮静化に向かったが、カビの完全な死滅化とクリーニングが課題として残った。

珍敷塚古墳のカビ発生と修理



紫外線照射



クリーニング作業

- ・平成21年4月に、紫外線照射による滅菌処理とクリーニング作業を実施した。

珍敷塚古墳のカビ発生と修理



現在の状況

- ・現在は安定した状態を保っており、経過観察を続けている。

日常管理

- ・文化財担当職員等が定期的に点検。多くが1～3ヶ月に1回程度。
- ・点検は目視と写真撮影が基本。管理カードや手帳に気付いたことをメモ。
- ・虫の死骸や土砂の流入、樹根の発生を確認した場合は清掃を実施。
- ・カビを確認した場合は、アルコールに浸したシートで拭き取る。
- ・定期的に、または石室内に入った時に、ホルマリン散布による消毒を実施するところもある。
- ・温湿度測定を行っている古墳は半数に満たない。

公開の状況

常時公開:2基

・竹原古墳・石人山古墳

希望時に随時公開:10基

・日岡古墳・珍敷塚古墳・日輪寺古墳・下馬場古墳 他

定期的に公開:3基

・王塚古墳・弘化谷古墳・仙道古墳

原則的に非公開:9基

・原古墳・鳥船塚古墳・寺徳古墳・丸山塚古墳・桜京古墳 他

保存活用に関する取り組み



装飾古墳の同時公開

- ・遠賀川流域で平成10年から
春と秋の年2回開催
- ・筑後川流域では平成13年から

保存活用に関する取り組み



装飾古墳保存連絡協議会

- ・装飾古墳を管理する自治体を中心となり、平成16年度に発足
- ・年1回の研修会では各市町村の事例報告を中心に意見交換
- ・県内各地持ち回りで開催し、現地視察も実施
- ・県外の自治体も参加

今後の課題

- ・個々の古墳にとって理想的な保存環境の把握
- ・点検項目や方法の検討
- ・適切な保存活用を行うための体制整備、予算措置